

牛胚移植技術普及の非経済的要因

MIYAJI Hirotake

宮路 広 武

草地生態部 体系技術評価研究室

新しい農業技術が普及していく背景には、何らかの要因が存在します。この要因を分析することで、普及させるためにはどの様にすればよいのか、その効果を発揮させるためにはどの様に用いればいいのかと言った点を明らかにする事が可能になります。この要因を大きく分けると経済的要因と非経済的要因に分けられます。経済的要因とは、生産量や生産物価格、生産コストの増減を通じて所得増加に影響を与えるものです。この点が、新しい農業技術の需用者である生産者にとって最も注目される点です。しかし、新技術採用の経済的利点が明らかになったとしても、それだけで新しい農業技術が普及していく訳ではありません。新しい農業技術の普及は、非経済的要因によっても規定されます。非経済的要因には、様々なものがありますが、どの様な非経済的要因が新しい農業技術の普及により大きな影響を与えるかは、その新しい技術の技術的特徴によって規定されます。

牛胚移植の場合、その技術的特徴は、胚とレシピエント(受胚牛)という物的な生産財の他に移植技術というサービスが必要な点です。つまり、胚とレシピエントに関しては、生産者自身が、何らかの方法で調達する事が可能ですが、移植技術に関しては、移植技術者が近隣に存在しない限り、このサービスを入手することは出来ません。また、このサービスの質が、受胎率等に影響を与え、生産コストや安定性に大きな影響を与えます。この様に見ると、これ

らのサービスの供給者である移植技術者が、牛胚移植の普及に大きな影響を与えるものと考えられます。では、実際にはどうなのでしょう。この点を明らかにするために、農家レベルでの牛胚移植利用先進地域でアンケート調査を行いました。

その結果、まず実際に胚移植に取り組むきっかけ及び胚移植に取り組む際に必要な情報の提供に関して、移植技術者が大きな役割を果たしていました。また、胚移植を用いた子牛生産を行うために必要な財・サービスの確保に関連して、移植の場面だけではなく、胚、レシピエントと言った物的生産財の確保についても、移植技術者が広く関与していることが、明らかになりました(図1)。つまり、このような移植技術者の存在が、当該地域における牛胚移植普及の大きな要因の一つになっていると言えます。この点は、胚移植の技術的特徴からしても理解出来るものです。では、当該地域において、このような移植技術者が、どの様にして育成、確保されてきたのか、と言う点が次に注目されますが、この点は、今後、明らかにしていきたいと思えます。

この様に、新しい農業技術の普及を考える場合、経済的要因ばかりでなく非経済的要因の検討も重要です。また、そのためには、その技術の技術的特徴を理解する必要があります。当研究室は、畜草研で唯一の社会科学系研究室ですが、その利点を活かしつつ、他研究室から供給される技術情報を積極的に摂取して研究を進めていきたいと考えております。



写真 農家の庭先での採卵

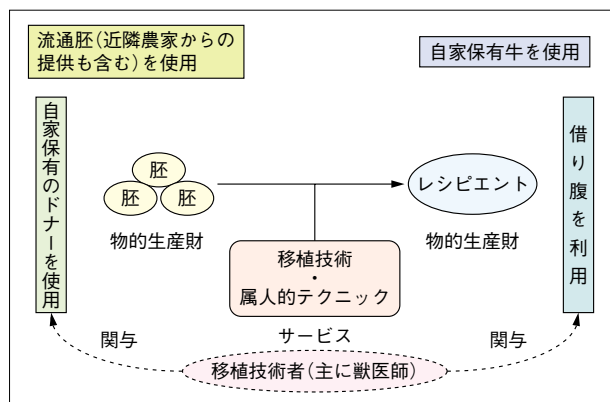


図1 畜産技術としての牛胚移植の特徴